

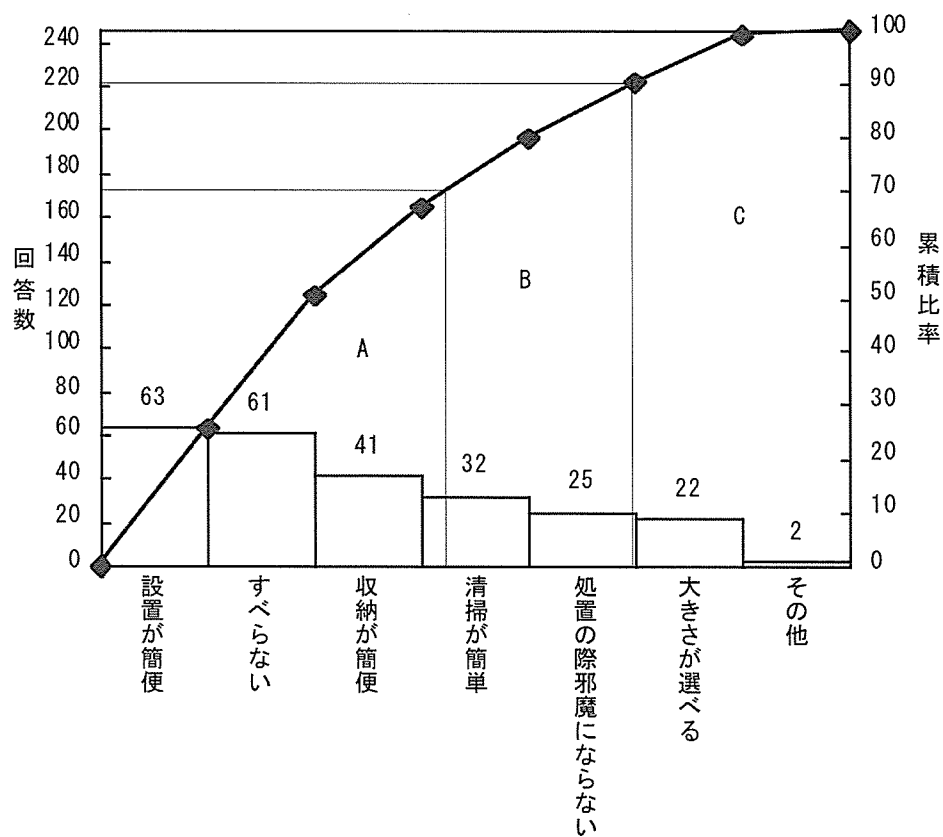
- ・ 大きすぎて、サイドテーブルが置けない時があった（大部屋だったためベッド間が狭かった）。
 - ・ マットの長さは良いが、幅は 10 cm～15 cm位、狭くとも良い（ベッドとベッドの間に敷いた時は踏むことがある）。
 - ・ 大き過ぎる。
 - ・ 今使用しているものは大きすぎて、処置がしづらく、DIV スタンドが乗って鳴ったりする。
- 患者がスイッチを OFF にしてしまう
- ・ オン・オフスイッチをわからないようにする。
 - ・ Pt が容易にオフになってしまう。
 - ・ 長期使用の患者はスイッチの使用方法を学習してしまうことがある。
 - ・ 学習してしまう患者はスイッチをオフにしまう。
 - ・ 患者自身が自分でオフにしたことがあった。
- コードが短い
- ・ コードを長く
 - ・ ナースコールから接続するまでのラインが短い。部屋が個室の場合広くセンサーが必要。
 - ・ マットの大きさと、邪魔にならない配線について改良が必要。
 - ・ コンセントからマットまでの長さが短い時がある。
 - ・ コードが短い
- 患者が乗っている間、鳴りっぱなしとなる
- ・ 患者がマットに上っている間、ずっと鳴り続けるのが困る。
 - ・ ずっと坐位になっているため、マットもふんでしまい鳴りっぱなし。位置少しずらしたら鳴らずに転倒した
 - ・ 頻回に降りる不穏な方には鳴りっぱなし。
- コードが汚れる
- ・ コードが長くつまづきなどの転倒に繋がりがやすいし、埃もたまりやすい。
 - ・ コードが長くて危険。汚れてしまう、落ちにくい。
 - ・ 歩行時、つまづきやすい。
 - ・ コードがこわれやすい。
 - ・ よごれる。
- 処置の際邪魔になる
- ・ 看護者がベッドサイドでケアをする時はスイッチを切っているが、邪魔と思うこともある。
 - ・ 処置の際邪魔になる。
 - ・ Nr に処置時、動かさなくていけないこと。
- ナースコールと連動しない
- ・ ナースコールに連動感知はないので、患者の動きで反応しているのかどうかを確認しづらい。
 - ・ 脱落時にナースコールに連動しない。
- 床の清掃がしにくい
- ・ 床に置くことで掃除がしにくい。
 - ・ 床そうじの時にややしにくい。
- ナースコールと併用できない
- ・ ナースコール、センサー両方使用できるものがないことがある。
 - ・ ナースコールも同時に使えること。
- 配線が複雑で設置が面倒
- ・ 配線が複雑。
 - ・ 接続コードが多く、搬送時に取り外しが面倒。
- 音色が変えられない
- ・ 複数で使用している場合は、音の種類が変えられるようにしてほしい。
 - ・ ナースコールと別なコール音の方が良い。

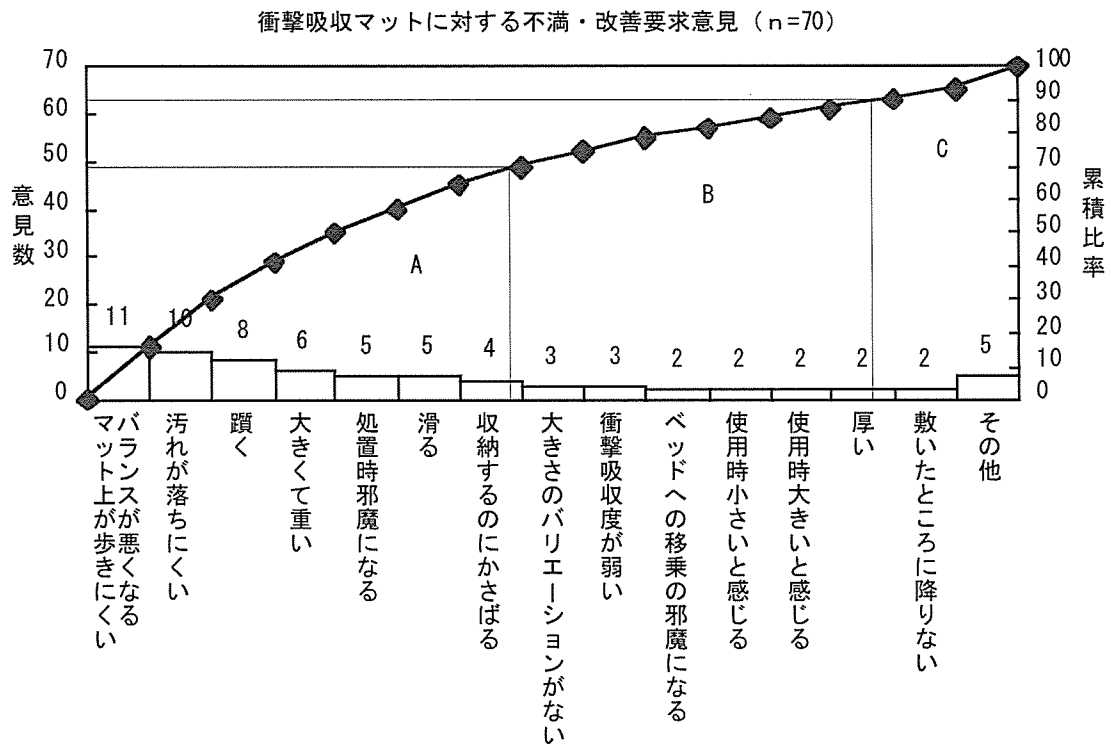
資料 3-1 衝撃吸収マットについてのアンケート集計結果

衝撃吸収マットの使用状況

使用状況	回答数	回答割合
現在使っている	58	19.7%
過去に使ったことがある	28	9.5%
使ったことがない	194	66.0%
不明	14	4.8%
計	294	100.0%

衝撃吸収マットの性能評価で重視する点 (n=246)





資料 3-2 衝撃吸収マットの評価軸と求められる性能

衝撃吸収マット	
評価軸	求められる性能
設置・収納のしやすさ	<input type="checkbox"/> 衝撃吸収性能を損ねることなく、軽量化がはかられている <input type="checkbox"/> コンパクトに折りたたむことができる <input type="checkbox"/> 持ちやすい <input type="checkbox"/> ベッドまわりに収納できる
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> 衝撃吸収性能を損ねることなく、可能な限りマットが薄いものとなっている <input type="checkbox"/> マットのエッジ部分に蹟きにくい加工がされている <input type="checkbox"/> マットの上で滑らないような素材・加工がされていること
メンテナンスへの配慮	<input type="checkbox"/> 汚れが付きにくい <input type="checkbox"/> 汚れが目立たない色や素材となっている <input type="checkbox"/> 汚れが落ちやすい <input type="checkbox"/> 洗淨ができる

資料 3-3 衝撃吸収マットの性能を評価するにあたって重視する点・選択理由・一覧表

1. 設置が簡便

- ・ 出し入れが簡単だと手軽に使いやすい。こまめに対応出来る
- ・ 使用していない時、使用する時、邪魔にならないように。
- ・ 難しいと誰も使用しない。
- ・ 置くだけで良い。
- ・ すぐに出せて、すぐに収納できることで早期に対策がとれる。
- ・ 簡単に設置でき、又、片付けることもできる。
- ・ 簡単に設置できる。
- ・ 設置が簡便。
- ・ ベッドから降りる時躓きにくい。
- ・ 夜間すぐに設置できること。
- ・ 設置が簡単なため。
- ・ 簡単に設置できないと意味がない。
- ・ 部屋が狭いのですぐ置ける。
- ・ 持ち運びやすい。
- ・ 車いす等ベッドサイドへの移動時。
- ・ 必要時、看護師1人で容易に扱え、素早く対応できる。
- ・ 難しいと使用しなくなる。
- ・ 必要な時にすぐ設置できる様に簡便な事が重要である。
- ・ 必要な時に少ない作業でつけることができることは、人手の少ない時間も設置できる。
- ・ 重くて設置が大変。
- ・ 簡単に敷くことができる。
- ・ 補助道具が必要なく設置できる。
- ・ 設置が簡便なこと。
- ・ 危険なPtにすぐに使いたい。
- ・ ベッドサイドに簡単に置くことができる。
- ・ おくだけなのですぐ使用できる。
- ・ 簡便でないと使いづらくなってしまふ。
- ・ 時間をとらない。
- ・ スイッチやセンサーがなく簡単に準備できる。
- ・ 置くだけでよいのでラク。
- ・ 設置しやすい。
- ・ 急ぎで設置することが多いため。
- ・ 簡単に設置できるものでないと不便だから。
- ・ 使用が簡便。
- ・ あまり重かったりすると困る。
- ・ 業務多忙な中でできるだけ時間をとりたくない。
- ・ 敷くだけなので良い。
- ・ 日中は使用しないことが多く、ベッドの下に収納でき、設置（持ち運び）が簡単なものが良い。
- ・ 軽く移動にも便利。
- ・ いつでも使用できる。
- ・ 誰でもが安全に簡単に使用できる。
- ・ 取り扱いがしやすい。
- ・ 夜間のみ使用等、常時使用するわけではないので。
- ・ 患者様の状況に応じ迅速に、少ない人数の看護師で運搬設置できる。
- ・ マットの大きさが大きいので、設置が簡便でないと、車椅子使用時にどけられない。
- ・ 設置が困難だと設置する自体が敬遠されてしまうため。
- ・ 時間をとられたくない。
- ・ 初めの設置が安楽の方が良い。
- ・ ベッド下に敷くだけで、非常に簡単に使用できる。
- ・ かんたん使用できる。
- ・ 短時間で設置できるようにするため。
- ・ 今使用しているのが二つ折りのタイプで、設置や運ぶ時大きすぎて大変。

2. 収納が簡便

- ・ 大きいので収納時大変。
- ・ ある程度の大きさが必要なため、使用していない時の収納が困難であるため。
- ・ (ベッドサイドで) 不要の時、一時的に収納することがあるため。
- ・ 収納場所に限りがあること。
- ・ 二つ折りで収納に場所をとり、重い。
- ・ 病室がせまいうえに収納スペースもないため。
- ・ 場所をとるから。
- ・ 病棟の大きさが限られているから、収納が簡単な方がいい。
- ・ 折りたたんでも大きいから。

- ・ 限られたスペース内での収納は重要。
- ・ 出し入れが簡単だと手軽に使いやすい。こまめに対応出来る。
- ・ 使用していない時、使用する時、邪魔にならないように。
- ・ 折りたためる。
- ・ 場所をとらない。
- ・ 出し入れが簡便。
- ・ スペースを昼、しっかりとれること。
- ・ 収納に少し困る。
- ・ 薄い。
- ・ スペースが狭い。
- ・ 使わない時は、しまっておきたいから。
- ・ 折りたたむだけだが場所をとってしまい、かさばる。
- ・ 普段あまり使用しないため置き場所に困る。
- ・ 大きく重いものは使いにくい。
- ・ 半分に折りたたみ、立てかけることができる。
- ・ 折りたたんで収納できる。
- ・ 夜間のみ使用等、常時使用するわけではないので。
- ・ 収納スペースが限られる。
- ・ 必要でない時すぐ片づけができる。
- ・ 大きいので折りたたんだりできること。
- ・ 倉庫が狭いので少しのスペースで置けるのが良い。
- ・ 常に必要なPtがいるわけではないので、収納しやすいと良い。
- ・ 保管場所に困る。
- ・ 大きすぎる物は収納するのが大変だけでなく、設置も大変。

3. 処置の際、邪魔にならない

- ・ Nsが処置時 off に簡単にできるように。
- ・ “邪魔にならないタイプが多い。
- ・ ベッドサイドでの観察・ケアのしやすさ、夜間も含め逆にマットがあることで、ひっかかり転倒を起こさない様にする。
- ・ ベッドサイドで処置をすることは多く、マットが邪魔になることが多いため。
- ・ 処置の邪魔になると設置しなくなったり、はずしたりしてしまう。
- ・ 邪魔になりやすい。その都度のけてするのも手間がかかる。
- ・ Nsの業務に支障を来さないため。
- ・ 医療サイドに支障があっては意味がない。
- ・ 段差が邪魔になると、処置がしづらい。
- ・ 直に踏んだり出来る。
- ・ 軽いため動かしやすい。
- ・ 処置時じゃまにならないのが良い。
- ・ 誰でもが安全に簡単に使用できる。
- ・ 処置がしやすいように。
- ・ ケア、処置時に問題になるのでは使用ができていくため。
- ・ すぐ片づけられる。軽い。
- ・ 薄い。
- ・ 段差がないこと。
- ・ 汚れやすいものだから。
- ・ 床マット式の為、ベッドサイドに立っても邪魔にならない。

4. すべらない

- ・ 患者、医療者共に危険な為。
- ・ 患者、スタッフ共に危険な為。
- ・ かえって転倒の危険が高くなるおそれがある。
- ・ 滑ると二次的に転倒の可能性。
- ・ ころばないように。
- ・ 滑って、転倒につながるのは危険。
- ・ 滑って転倒するのは危険。
- ・ 滑って転倒しないようにしてほしいため。
- ・ 滑りやすいとさらに転倒のリスクになる。
- ・ 転倒・転落をした際に、受ける衝撃を軽くでき、転倒によるアクシデントを予防できるため。
- ・ マットの上を歩いた時の危険防止、つまづきを防止する形状になっている。
- ・ 安全確保のため。
- ・ 滑って転倒はあり得るし、生命の危険につながる。
- ・ 転倒予防。
- ・ 患者・看護側共に危険。
- ・ すべること、第2の危険を生じる可能性があるため。
- ・ 現在使用しているマットは滑りやすく危険である。
- ・ 転倒防止のため。

- ・ 患者の安全のため。
 - ・ 起きる時に滑らないのが良い。
 - ・ 滑って転倒の危険性を考える。
 - ・ 患者様が移動時に転倒を防ぐため。
 - ・ 滑らなく、ズレることがない。
 - ・ マットと床、もしくは降りた時の足が滑らない。
 - ・ 患者が降りた際の事故防止のため。
 - ・ 転倒防止のため。
 - ・ 事故防止大切。
 - ・ 転倒になるから。
 - ・ 離床してすぐに足をつく所なので、滑ると転倒してしまう。
 - ・ 滑ったら意味がない。
 - ・ Pt が危険なため。
 - ・ Pt やナースの危険予防。
 - ・ マットが滑り、位置が変わってしまうと困る。
 - ・ 転倒防止。
 - ・ 危険が少ない方が良い。
 - ・ 目的です。
 - ・ 滑るようでは危険である（転倒の可能性が大きくなる）。
 - ・ 安全のため。
 - ・ Pt、ナースともに外傷のリスクがある。
 - ・ 滑らないため。
 - ・ マットが滑っては安全性が問題になる。
 - ・ ベッド昇降の際に、患者に危険でない。
 - ・ 足をついた時に、滑って転んでしまったら意味がないから。
 - ・ 立ち上がった時に体勢が崩れない様な物。一方向だけでなく 2～3 方向に同時に敷けるものがあると良い。
 - ・ 安全性。
 - ・ すべると転倒につながる。
 - ・ 誰でもが安全に簡単に使用できる。
 - ・ 転倒の原因にならないようにするため。
 - ・ 3 点柵で使用した時、足をつくとフワフワする。
5. 大きさが選べる
- ・ 体格により選択できるもの。
 - ・ 部屋のスペースなどの問題があるため。
 - ・ 設置する場所によって大きさが選べると良い。
 - ・ 床に敷き詰める時、合わせやすくする為。
 - ・ 体格に合わせて。
 - ・ ベッドサイドの広さにより使い分けられる。
 - ・ Pt の動きに合わせてられるため。
 - ・ ベッド周囲の広さが関係するため。
 - ・ 患者の身体や部屋にも合わせて選べると良い。
 - ・ 使用が簡便。
 - ・ 患者の状態により使い分けができる方が良い。
 - ・ 部屋で広さが違うため。
 - ・ 部分的に使用できることが便利。
 - ・ ベッド周囲の広さに応じて選べるとよい。
 - ・ ベッド周囲が狭い。
 - ・ 大きさが選べるとありがたい。
 - ・ 場合により大きさが選べると使い分けできるから。
6. 清掃が簡単
- ・ 失禁などで、汚れることが多い。
 - ・ 汚れやすいため。
 - ・ 毎日でも清掃が簡単にできる。
 - ・ 足元にある為、汚れやすい。
 - ・ 足元にある為、汚れやすい。
 - ・ 汚れて感染源になるため、簡易にふき取りできるものが良い。
 - ・ 小児でベッド周囲の床が汚れやすいため。
 - ・ 床に直接敷くため、清掃が必要であるため。
 - ・ 繰り返し使う。
 - ・ 清潔なものの提供ができること。
 - ・ 直接患者が触ることもあるため。
 - ・ 下に敷くものは不潔になりやすいので。
 - ・ 感染の事を考えた時、清潔が簡単なことは大切である。
 - ・ 床に敷く物なので、すぐすぐ汚れるため。
 - ・ 汚染状況を確認でき、清掃できる。

- ・ 清潔を保つこと。
- ・ かたづけが簡単になる。
- ・ 簡単に拭きそうじができるため。
- ・ 汚物などで汚れやすいから。
- ・ 汚れやすいので。
- ・ 汚染時の清拭等、使用後の清拭等容易な方が良い。
- ・ 外見上の清潔感を保つため。
- ・ 綺麗に置きたい。

7. その他

- ・ 衝撃が少しでも軽くすむように内容を重視してもらいたい。
- ・ きちんと効果があるか。

資料 3-4 衝撃吸収マットへの不満・改善要求意見・一覧表

□マット上が歩きにくい・バランスが悪くなる

- ・ 上に立った時、不安定、バランスが取りにくく、転倒しやすい時もある。
- ・ 上を歩きにくく、ふらつきがある患者の場合、通常の床よりも転倒しやすそう。
- ・ 少しクッションがあるので、そこに直接ポータブルトイレがおけない。
- ・ やや段座があったり、素材により歩ける患者では、躓いたり、バランスを崩して転倒する可能性がある（見守り介助必要）。
- ・ 転落の可能性がある場合の設置には適しているが、歩こうとすると足を取られてかえって不安定になる。どっちつかずのケースの場合には、使用するか否かに迷うことがある。
- ・ その上で歩こうとして転んでしまう Pt がいた。
- ・ クッションがあるので起座時不安定。
- ・ ふわふわしており、足をつくと転びやすい。
- ・ 足場がフワフワしていて安定しないため、マットの上を歩いた時の転倒のリスクが高い。
- ・ 柔らかいため、その上を歩くと逆によけて転倒することもある（お座敷の場合に使用時）。
- ・ 対象 Pt が動けず、転倒防止用であればこのマットは有効。しかし動ける Pt で転倒の衝撃部分のために使用しようとするとうまく置場所が邪魔になる。

□汚れが落ちにくい

- ・ 汚染が目立つ。
- ・ 汚れやすい。
- ・ しみが付いてしまうと清掃が困難である。
- ・ 汚れやすく、洗いにくく、洗っても汚れが落ちづらい。
- ・ 汚れが取りづらい。
- ・ 汚れが落ちづらい。
- ・ 汚れやすい。
- ・ 床面が汚れ易い。
- ・ 床におくので不潔。
- ・ マット上で排尿されたケースがあり、洗濯及び乾燥に大変な手間を要した。その後も臭いがすっきり取れなかった。

□躓く

- ・ 段差になるので、そこで転倒する危険がある。
- ・ 段差がありすぎて、患者が転びそうになる時がある（移動時）。 厚みがあると、かえってつまづいたり、設置場所が難しい。
- ・ 輸血ポンプや点滴棒をこのマットの上に乗せた場合、患者が押しづらく、躓いてしまう。
- ・ 角で足が引っかかる（段差がある）。
- ・ 段差があり、つまづきそうになった。
- ・ やや段座があったり、素材により歩ける患者では、躓いたり、バランスを崩して転倒する可能性がある（見守り介助必要）。

□大きくて重い

- ・ 滑り防止は重く、扱いにくい。
- ・ 重く、持ち運びが大変。
- ・ 2つにしても大きい
- ・ 大きくて重い。
- ・ 重い。
- ・ 大きくて、収納や運ぶのが大変。

□処置時邪魔になる

- ・ 必要ある Pt の Bedside で処置をする時には、いちいちどかさないとならない。
- ・ 処置時に邪魔になる。
- ・ 処置時は動きにくい。
- ・ 処置の時じゃま。

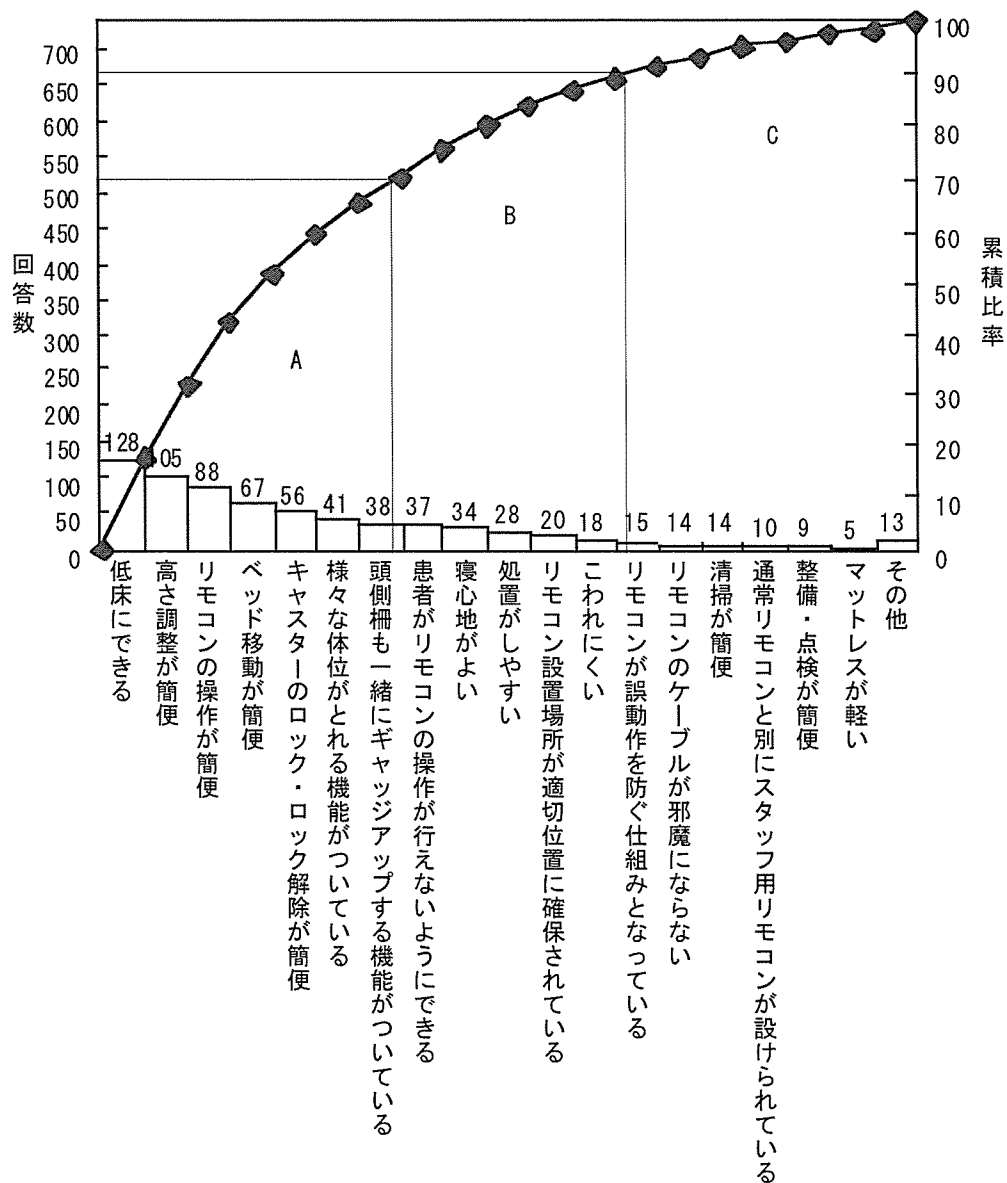
- ・ 医療者および家族がきた時、靴の着脱がめんどう（靴でのることに抵抗感あり）。
- 滑る
- ・ 滑りやすい。
 - ・ すべりやすい。
 - ・ 滑りやすい。
 - ・ ベッド下に敷くのだが、固定不十分で、滑りやすい（床面とマットで）気がある。もう少し密着していると良い。
 - ・ 床面がすべることがある。
- 収納するのにかさばる
- ・ 収納にかさばる。
 - ・ 収納に場所を取る。
 - ・ 場所を取る
 - ・ ある程度の大きさが必要だが、収納に場所を要したり、手間がかかる。
- 大ききのバリエーションがない
- ・ サイズが1つしかない
 - ・ サイズが色々ほしい。
 - ・ 種類豊富に。
- 衝撃吸収度が弱い
- ・ 吸収の程度がやや不安がある。
 - ・ 吸収の程度を up させてほしいです。
 - ・ もう少し Soft にならないか。硬すぎる。
- ベッドへの移乗の邪魔になる
- ・ 車いす、ストレッチャーへの移乗時にのけないと不便。
 - ・ 車椅子を使用する時にマットをどかさなければならない。
- 使用時、小さいと感じる
- ・ やや短い。
 - ・ ベッドより少し離れた（1歩2歩）こけると、マットがない。
- 使用時、大きいと感じる
- ・ 大きすぎる。
 - ・ 巾をもう少し狭くしても良い。
- 厚い
- ・ もう少し薄くして、耐衝撃性のあるマットにしてほしい。
 - ・ もう少しすくくクッション性の高い素材があると嬉しい。
- 敷いたところに降りない
- ・ 不穏状態や高齢者は夜間になるとベット柵のあるなしに関係なく、自分の降りたい所からベット下に降りようとし、衝撃吸収マットで予防した所からではなく降り、事故を起こしているケースがある。
 - ・ 2方向、3方向に敷けるものがよい。
- その他
- ・ ベッド下に敷きたい人は沢山いるが、1枚あたり高価なため、十分使用出来ない
 - ・ ベッド柵が落ちて音も吸収されてしまうため、転倒・転落のリスクがある。

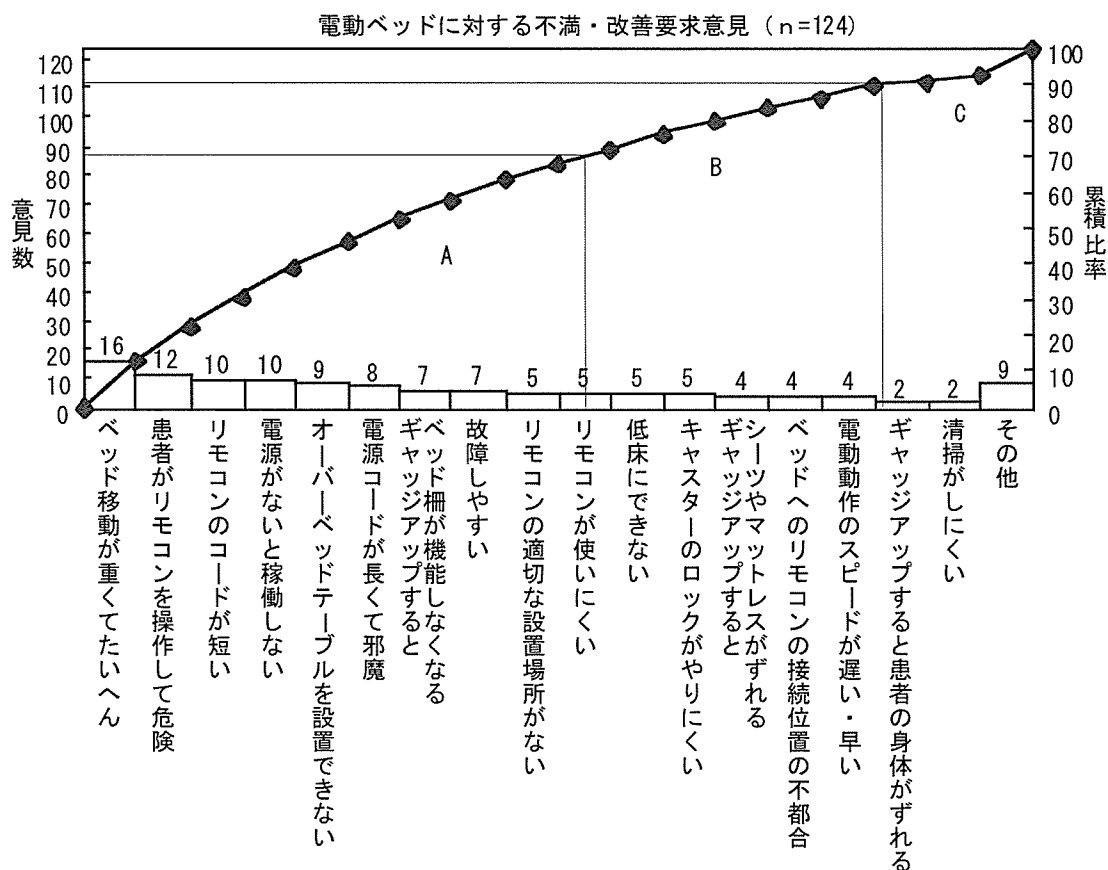
資料 4-1 電動ベッドについてのアンケート集計結果

電動ベッドの使用状況

使用状況	回答数	回答割合
現在使っている	246	83.7%
過去に使ったことがある	12	4.1%
使ったことがない	28	9.5%
不明	8	2.7%
計	294	100.0%

電動ベッドの性能評価で重視する点 (n=740)





資料 4-2 電動ベッドの評価軸と求められる性能

電動ベッド	
評価軸	求められる性能
安全性への配慮	<input type="checkbox"/> 低床にできる <input type="checkbox"/> ベッド柵をともなうギャッジアップ機能がある <input type="checkbox"/> つまずかないように電源コードを設置できること
患者の快適性・利便性への配慮	<input type="checkbox"/> リモコンを患者の状態や姿勢に応じた使いやすい位置に設置できる <input type="checkbox"/> リモコン操作を簡便に行うことができる工夫がされている <input type="checkbox"/> リモコンのボタンが押しやすい <input type="checkbox"/> さまざまな姿勢がとれる機能がついている <input type="checkbox"/> 高さ調整が簡便に行うことができる
設置や移動のしやすさ	<input type="checkbox"/> キャスターのロック機能の操作が簡単に行うことができる <input type="checkbox"/> キャスターの滑りがよい <input type="checkbox"/> ベッド本体が強度を損ねることなく軽量化がはかれている <input type="checkbox"/> 電源がない場所でも稼働できる <input type="checkbox"/> 電源コードがはずせる
誤操作を避けるための機能	<input type="checkbox"/> 患者がリモコン操作を行えないようにできる <input type="checkbox"/> 操作を簡便に行うことができる工夫がされている
故障や破損を防ぐづくり	<input type="checkbox"/> リモコンケーブルが断線しない構造になっている <input type="checkbox"/> 他のベッドのリモコンが転用できる <input type="checkbox"/> 電源コードがはずせる

資料 4-3 電動ベッドの性能を評価するにあたって重視する点・選択理由・一覧表

1. ベッド移動が簡便

- ・ ベッド移動が多い。
- ・ ベッド移動が多いから。
- ・ ベッド移動が多いため。
- ・ 搬送に便利。
- ・ 重症者に使用する事が多く、ベッドのまま移動することも多いため。
- ・ 以前使用していたベッドより軽く移動が楽。
- ・ ベッドでの移動が多い。
- ・ 軽い。
- ・ 転室が業務の中でも多いので、移動がスムーズに出来る方がいい。
- ・ 足元の1ヶ所のロックであること。
- ・ ベッド搬送が多い為。
- ・ ベッド搬送が多い為。
- ・ ベッドが軽い。キャスターが大きく、動きやすい。
- ・ 緊急時にそのまま分娩室や手術室に移動できるため。
- ・ 通常のベッドより重さがあるため、移動に手間取るため。
- ・ ベッドを移動することが多いため。
- ・ 利便性。
- ・ 同じ部屋で使用しないため、動かし易い方が良い。
- ・ キャスターが安定していて、スムーズに動く。
- ・ ベッドごと検査などに移動するため。
- ・ Ptの状態変化に応じ移動するため。
- ・ 移動が頻回にあるため。
- ・ 重くて大きいので不便。OP 迎えに使用できない。
- ・ ベッド移動は毎日の様に行うので、軽く簡単で良い。
- ・ ベッドの巾が狭く、軽いので動かしやすい。
- ・ ベッドサイズがコンパクトであり、総室での利用が便利。
- ・ ベッドごとの移動がしやすい。検査にいくとき等。
- ・ 軽い。
- ・ 臥床の患者が多く、検査などベッドのまま移送することが多い。
- ・ 移動することが多いから。
- ・ ベッドの移動をする際に便利のため。
- ・ 手動ベッドを電動ベッドとの入れ替えを行なう際、スリムで可動もしやすい。
- ・ ベッドごと移動が多いため。
- ・ 移動が多いため。
- ・ ベッド移動が多いため。
- ・ コードが移動時じゃまになる。部屋の移動が多いので動きやすい物。
- ・ 重いと大変である。
- ・ 現在使用中のものは重く、移動時に同じ方向ばかりに行き、まっ直ぐにすすまない為。
- ・ ベッド移動がスムーズに行なえることは効率化につながる。
- ・ ベッド移動を頻繁に行なっている。
- ・ 寝た切り患者様が多い為、そのまま搬送が出来る。
- ・ 時間が短時間で済む。
- ・ 高さの調節が簡単で、移動も簡単である。
- ・ 転室等が多いため。
- ・ 電動ベッドは重い為、キャスターが動きがいいのか、移動も簡単にできる。
- ・ 利用頻度が高いため。
- ・ 移動・高さの調整が簡単なこと。
- ・ 術後移送があるため。
- ・ 手動に比べて重い。
- ・ 状態変化がある時、移動が必要になるため。
- ・ 重症者やケア度の高い人が使用する機会が多いので、ベッドのまま移動が多い。
- ・ OP 病棟の為、移動が楽なものが良い。
- ・ ベッドが軽い。
- ・ ベッドを移動することが多いため。
- ・ コマが軽い (スムーズに動く)。
- ・ 移動時の高さがあわせやすい。
- ・ 毎日ベッド移動が多いので。

2. キャスターのロック/ロック解除が簡便

- ・ ロックが簡便な方が使用しやすい。
- ・ 現在のものは硬くて、解除しにくい。
- ・ 今使っているタイプは、ロック解除が硬く不便。
- ・ 足元に設置してあり一回踏むだけでロックでき、狭い場所でもやりやすい。

- ・ 移動がさせやすいこと。
- ・ ロック解除、ロックが簡単。
- ・ 処置時に動かし易いと助かる。
- ・ ベッドを下げた時に、キャスターの向きによりロック/ロック解除がしにくい。
- ・ 片足でロック解除ができる。
- ・ 使いやすい、ベッドを動かす事が多いため。
- ・ 頻回にベッド移動するので、ロック操作が簡便な方が良い。
- ・ 一ヶ所でロックできる。
- ・ 危険の防止。
- ・ 種類によりキャスターロックが操作しづらいものがあり、移動（緊急時）時に支障がある。
- ・ ベッド車輪部のロックはかけづらい時あり、容易に動きやすく危険。
- ・ ロックが1ヶ所でできれば、面倒でなくなる。
- ・ 病室がせまく、ロックの解除を度々するため。
- ・ ロック解除が大変で、ベッドで移動に苦労したことがあるため。
- ・ ロックが簡単に確実に行なえる事が必要と考える。
- ・ 移動しやすく、固定もしやすい。
- ・ 固定がしやすい。
- ・ 患者・ナースにとって扱いやすい。
- ・ 足元に1ヶ所のみなので、狭い部屋でも操作できる。
- ・ 業務上必須。
- ・ ワンハンドルロックのため、何ヶ所も足をのぼして止めなくて良い。
- ・ 安全。
- ・ 今までキャスターが2～4ヶ付いたベッドが多く、ロックの忘れなどがあったが、1ヶ所でよいので簡単。
- ・ また確実にロックできる。
- ・ ロックがしっかりときく。
- ・ 数ヶ所のロックが必要な場合、かけ忘れる事がある。
- ・ 安全性。
- ・ 移動が頻回にあるため。
- ・ 安全のため。
- ・ ロックが1ヶ所なので使いやすい。
- ・ しっかりロックがかかるので安全。
- ・ ロック前後動かなくて良い。
- ・ 1回の動作でできる。
- ・ 足元にあり、せまい場所でも可能。
- ・ 足側を操作ができること。
- ・ 我々の身長に合わせて特に体変のとき良い。
- ・ 移動が多いため。
- ・ 安全確保のために必要であるがやりにくいと困る。
- ・ ベッドでの患者輸送を行なう為、ロックが必要な時が多いので良い。
- ・ 簡単でしかも固定がしっかりできる。
- ・ 高さの調節が簡単で、移動も簡単である。
- ・ 1アクションでことがたりる。
- ・ キャスター4つにロックがあるタイプは使用しにくい。
- ・ 移動・高さの調整が簡単なこと。
- ・ 患者様のベッド移動がわりと多いので。
- ・ ロックがきちんとかかる。
- ・ 一ヶ所でできる。

3. 低床にできる

- ・ 高齢者が多くベッドの昇降がしやすい。
- ・ 昇降が楽に行える。万一の転落の時の衝撃を和らげることができる。
- ・ 転落の時の危険度を少なくしたい。
- ・ 転倒転落を予防もしくは被害を最小限にする為。
- ・ 下肢の筋力低下や歩行障害のある高齢者が使用するため。
- ・ 転落時の受傷を少なくできる。
- ・ 高齢化により、ベッド調節ができたり、高さの調節が出来ることが第1。転落の時の危険も少なくできる。
- ・ 転倒が多いので低床にできることが1番である。
- ・ 転落の予防になり、仮に転落しても大事にならない。
- ・ 処置の介助、移動などサイズに合わせておこないたい。
- ・ 転倒・転落の危険を予防できる。
- ・ 安全確保。
- ・ 転落時の危険が小さくなる。
- ・ 転落時の危険防止。
- ・ 転落防止。
- ・ 患者様自身でも操作でき、転倒予防につながる。
- ・ 転倒後の外傷を防ぐ上で、リスクのある患者は低床にする必要があるため。

- 老人が使うから。
- 転倒・転落防止。
- ベッド柵を乗り越えて落ちた場合に備えて。
- 老人が多いのでこれが良い。
- 転落の危険は避けられないが、少しでも衝撃を少なくしたい。
- 転落の危険の患者が使用できる。
- 転落リスクの高い患者への使用にて事故を最小限に食い止められる確率が高くなる。
- 高さ調節ができる。特に低い高さにできること。
- 当院で使用するベッドは、ICU等で使用するので低床にできないので危険。
- 離床を促す時、端坐位で足が床に着かないと、離床が進まない。危険なので。
- 畳を使用するような人には最適だと思う。
- 転落をした場合の衝撃を少なくするために。
- 20 cmまで低床にできるものと、そうでないものはあるが、転落したとしても、外傷を少なくとどめることができるのでは？
- 低床の操作が簡単にでき、使いやすいこと。
- 患者の安全、転落防止のため、最低床にし、事故発生時の衝撃を少なくするため。
- 転倒してもけがが軽くてすむように。
- 危険防止。
- 電動ベッドを使用する患者は転倒転落のリスクが高い場合が多いから。
- 高齢の方は背の低い方が多く、転倒防止のため。
- 高齢者の身長の高い方にとって足底をしっかりつけベッドより移動できるなどよい。
- ベッドの高さが自由に換えられる。
- 乗り降りや他の移動でも、必要な高さに変更しやすい。
- 転落等の危険性を考えた時、低くできる機能は大切である。
- 事故防止。患者には低床、処置時は高くできるように。
- 高齢者はなるべく低目のベッドがよい。
- リハビリがすすむ場合、op後、高齢者の場合必要である。
- 老人、背の低い人により。
- 安全の為。
- 低床ベット、普通のベットともかなり低くなるので転倒転落しても骨折する人がかなり減少した。
- 患者の状態に合わせることができる。
- ベット転落を考えても低床にできるとよい。
- 事故を最小限にする為に必要。
- 安全に利用できる。
- 転落等を考慮する必要性から。
- 高齢者が多く、転倒転落の予防に効果がある。
- 患者の離床に便利。
- かなり低床にできる。患者の状況に合わせて低くできる。
- 背の低い方が多い。危険防止。
- Ptの体格に合った高さにしないと、転倒してしまうので。
- 動ける患者のために、低い方がいいから。高いと危険だから。
- 転落した時のため、離床のため。
- 患者様の乗降がしやすいので。
- とにかく低床にできることが必要。患者の乗り降りが安全なように。
- ベッドから万が一転落した時の危険度が低いこと。乗り降りが便利であること。
- ベッドの高さを調整するのが簡単。低床にできること。
- 高さの調節が必要。
- 低床で使用する場合が多い。しかし処置時には、高さを調整し、高く使用できる。
- 患者様の立ち上がりやすい高さに調節できる。
- 患者さんの上がり下がりが楽になる。転倒リスクを低くできる。
- 高齢者が多いため。
- 患者処置に適している。
- 患者に合わせた使用ができる。
- 安全を確保しやすい。
- 高齢の患者が多い為。
- ベッドの高さを低くし、外傷を防ぎたい。老人の体型に合わせる。
- 患者に応じて高低がとれることや、高齢者、認知症患者も多いため。
- 安全性。
- モーターの設置でベッドの高さが低床にならないタイプあり、Ptが不便。高いと転落した場合の被害が大きい。
- 低床ベッドとして使用できる。
- 患者も操作できるように。
- 小児に使用することもあるため。
- 患者のベッドへの昇降が楽にできる。
- Ptの安全のため。

- ・ 患者が離床しやすい高さ、安全な高さにしやすいため。
- ・ 危険の防止。
- ・ 高齢化、転倒防止のため、低床にできることが必要。
- ・ 転倒予防に。乗り降りがしやすい様に。
- ・ 転倒対策の際、床ベッドにする前段階対策利用。
- ・ 離床時に役立つ。
- ・ 患者さん自身の移動をスムーズにするため。
- ・ 事故防止のため。高齢者、認知症の患者の入院が多いため。
- ・ 移乗時に患者の足がつく高さにできること。
- ・ 転落リスクの高いPtがいる場合に必須項目であるため。
- ・ 低床にできるので、転落してもけがのリスクが少ない。
- ・ 低床ベッドの適応が多い。
- ・ 老人においては低くできることも必要。
- ・ 老人がふえ機能として当たり前に備えてもらいたい為。
- ・ 患者の転倒転落防止につながる為。
- ・ 安全確保のために。
- ・ 低床する事で転倒のリスクが低い。転倒しても衝撃が少なくする為。
- ・ ケア度の高い人と、ADL 拡大中の方と混在している。ADL 拡大中の方は移動時に楽である。
- ・ 高齢者などが多いことや、ADL がアップした際に調節できるベッドが良い。
- ・ 患者の身長に合わせて低床にできると良い。事故防止にもなる。
- ・ 患者様が床に足がつく高さに調節可能。
- ・ 可能な限り低床に出来ることを望む。
- ・ 転落時の事故を最小に出来るため。
- ・ 電動は自ら行う人も多く使うため、状態により低床もあって良い。
- ・ 安全確保が必要時できる様にするため。
- ・ かなり低くできる。
- ・ 簡単に上下できるから。
- ・ 転落リスクのある人には必要。
- ・ 高齢者が多くなり、足がつくように。
- ・ 車椅子移動など必要な移動がしやすい。
- ・ 高さの調節が簡単で、移動も簡単である。
- ・ 他のベッドでは、キャスターを外して対応していたため。低床だと患者様の上がり下がりが楽となる。

4. リモコンの操作が簡便

- ・ 各年代にも使いやすい。
- ・ 無理な姿勢を取らなくてもベッドの高さ調節ができ、処置が行える。
- ・ 患者様が簡単に操作ができ、離床が速く行える。
- ・ 安全。
- ・ 利便性。
- ・ 高齢患者にも操作が簡単。
- ・ わかりやすい。
- ・ 患者自身が行うこともあるので簡便なものが良い。
- ・ 簡単に使用できる。
- ・ 操作しやすい。
- ・ 年齢、障害に関わらず、誰でも操作しやすい方が良い。
- ・ 操作が簡便。
- ・ 患者さんが自由に楽な体位にできる。
- ・ 患者さんに説明すれば簡単にできる。
- ・ リモコン操作が簡単なので本人にもできる。
- ・ Pt が使うから。
- ・ 必要に応じて患者様も自分の好きな高さにギャッチアップできる。
- ・ 患者が使いやすい様に。
- ・ 高齢の患者にわかりやすく、又、スタッフも使いやすい。
- ・ 看護サイドで処置を行なう時や、床上安静の患者様でもスムーズに使用出来る。
- ・ 患者さん自身にも理解し、使ってもらうため。
- ・ OP 後離床をすすめる Pt の場合、自分でギャッチ up を上下でき、安楽にすごせるから。
- ・ 患者さんにも教えて自分でやって頂くことができる。
- ・ 複雑な仕組みでは動かせない。
- ・ ナース・Pt も分かりやすい方が良い。
- ・ 身体の不自由な方が自分で使うこともあるので。
- ・ 自分で操作できる患者がほとんどなので操作が簡単であった方が良い。
- ・ 臥床患者でも、1人でベッドの頭部側を挙上することができる。
- ・ 誰もが調節できる。
- ・ 患者様が自分で操作できるためには簡便が良い。
- ・ 患者さんにとってもスタッフにとっても分かりやすいものが利用しやすい。
- ・ 下肢の筋力低下や歩行障害のある高齢者が使用するため。

- ・ 間違いなく安全且つ適切に使用する為には簡便な方が良い。
 - ・ 簡易であり、患者様も操作が可能。
 - ・ 患者様自身でも操作でき、転倒予防につながる。
 - ・ 主に Pt が自由に使う事が多いため。
 - ・ リモコンが分かりにくいと誤操作しやすい。
 - ・ 使いやすい。
 - ・ 患者でも簡単に調節できる。
 - ・ 電動ベッドを使用する人は、ある程度自分でも操作できる人のため。
 - ・ リモコン操作が誰でも自由にできるために。
 - ・ 操作が簡便な事で速やかな体位交換ができる。又、患者自ら操作できる。
 - ・ すぐに対応できるように、患者本人でも操作できるように。
 - ・ 患者が安全に使用できることが第一。
 - ・ 患者自身で操作できる。
 - ・ ギャッジアップ、様々な体位がボタン操作で一人で行える。患者様が操作する時もしやすい。
 - ・ 操作が簡便でないと、処置などやりにくい。
 - ・ 利用する患者様が使いやすいと生活に支障が少ない。
 - ・ 患者も自分で操作を行う事も多く、操作が安易で安全なことが望まれる。
 - ・ 患者や家族の理解がしやすいように。
 - ・ 患者自身でもリモコン操作ができること。
 - ・ 高齢者が多いため。
 - ・ 機能が複雑になると速やかに対応できないため、間違える。
 - ・ 操作が簡便—処置や体位変換がスムーズ。
 - ・ 誰にでも簡単に操作できる。
 - ・ 効率性。
 - ・ ギャッチアップ、坐位等簡便に可能。
 - ・ 動けなくても自力で動いて頂くため。
 - ・ ボタンを見ればすぐわかる。
 - ・ 患者も簡単自由に行える。
 - ・ 患者の状態をみながらできる。
 - ・ ワンタッチ式にて患者様も容易に操作可能。
 - ・ 患者自身が操作することも多いため。
 - ・ 迷わずにできる。
 - ・ ボタンに絵もついている為、わかりやすい。説明しやすい。
 - ・ 安全性。
 - ・ 利用者本人が操作することが多いため。
 - ・ スタッフの動線が少なく、労力が軽減できる。
 - ・ Pt が操作するので。
 - ・ 老人が多い。
 - ・ 自分で操作する患者もいるので。
 - ・ 離床の際、簡単に患者も操作できる為。
 - ・ リモコンは患者の自立を促すため患者自身も操作するため。
 - ・ スタッフにとっても、又、患者様自身が操作されるにも簡便な方が良い。
 - ・ 移動・高さの調整が簡単なこと。
5. リモコンが誤動作を防ぐ仕組みとなっている
- ・ 患者が不用意にリモコンを触り、誤動作をすると危険であるため。
 - ・ 患者の誤動作で無理な体位とならない工夫があれば良いと思う。
 - ・ 危険防止のため。
 - ・ 誤動作を防ぐ仕組みがないと危険。
 - ・ 事故防止のため。
 - ・ 安全が第一。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 理解力の低い Pt が自分でリモコン操作をし、事故を起こすのを防ぐため。
 - ・ 患者が誤って作動させた時、Pt がベッドに挟まれたら危険だから。
 - ・ 患者が踏んで誤作動することを防ぐ。
 - ・ 誤動作による危険予防。
 - ・ 誤動作を防止するため。
 - ・ 同時に動く危険なため。
 - ・ 患者も自分で操作を行う事も多く、操作が安易で安全なことが望まれる。
6. リモコンのケーブルが邪魔にならない
- ・ コードがちぎれたことがある。
 - ・ リモコンのケーブルが引っかかり事故になる可能性がある。
 - ・ 処置・体変がやりやすい。
 - ・ ラインがからまると危険。
 - ・ ケーブルに引っかかる。
 - ・ 移動時ケーブルやコンセントが邪魔になる。

- 患者さんのベッド上の生活が快適となるために、ケーブルは障害になる。
 - 処置時に邪魔にならない。患者に対して危険にならない。
 - Ptのベッド周りの環境整備が容易であるため。
 - 身体の不自由な方が自分で使うこともあるので、使用時邪魔になり事故につながらないため。
 - 下肢の筋力低下や歩行障害のある高齢者が使用するため。
 - ケーブルが邪魔になると別のトラブルが生じる。
 - リモコンケーブルがベッドの間にはさまってしまう。
 - ケーブルに患者が引っかかたりして、事故のリスクが高くなる為。
7. リモコン設置場所が適切位置に確保されている
- 使用しにくいところについては困るので。
 - 患者や医療者が使用しやすく、誤動作されないため。
 - 使いやすさ。
 - コードがちぎれたことがある。
 - 柵とのバランスやコードの長さの都合で使いやすさに欠ける。
 - 右・左ともに設置できる。
 - 患者の精神状態により、患者自身が操作できないような位置に置くなど配慮できる。
 - リモコンがいつも届かないような所にあるので。
 - 患者自身が操作しやすいように。
 - 設置しやすい様なコードが必要。
 - ベッドの位置によって、リモコンが簡単に付け替えられると良い。
 - 現在のベッドのリモコンはフック式になっているが、外れ、床に落下しやすいため。
 - 自己動作ができる。
 - Pt、医療者共に使いやすくしてほしい（頭側、足側にほしい）。
 - Ptにとって大切。
 - いつでも好きな時にPtがベッド上げ下げできるように、決まった場所にあるように。
8. 患者がリモコンの操作が行えないようにできる
- 現在意識がクリアでない患者には、電動ベッドを使用できないでいるため。
 - 安全のため。
 - 不穏な患者が自分で操作すると危険。
 - 事故防止。
 - 事故につながる。
 - 安全性。
 - 事故防止のため。
 - 認知症や術後、せんもうの患者さんへの事故防止となる。
 - 当院は全ベッドが電動ベッドではない。使用する患者様を選択している。（術後の方、重症の患者様）ので使い勝手の良いもの。
 - 身動きがとれない方が、自分の意志でベッドの高さや起きあがりができるのは良いと思う。
 - Ptが危険なため。
 - 誤作動による事故の防止。
 - 理解力の低下がある方がリモコン操作をした場合、事故に繋がる恐れがあるため。
 - 認知症患者等が自分で操作できないようにする。
 - 誤作動が予防できる。
 - 自ら動かすと危険。
 - 認知障害のある場合は必要。
 - 安静保持、安全確保。
 - Ptが操作しての事故が多い。
 - 患者様が調節できない。
 - 患者様が自分で操作してしまって、危険が生じたことがあるため。
 - 患者が操作できてしまうと安静度を守れない場合があるから。
 - 危険防止。
 - いくら良い機能があっても、掃除がしにくいとダメだと思う。
 - 繰り返し使いたい。
 - 安全の為。
 - 認知度の高いPtはさしこみからはずしておくことで安全である。
 - 認知症の患者が操作し、異常に高くなり危険な時があった為。
 - 手元の近くに置かないようにすることもできる。
 - 今使用しているものにはないが、あったら良いと思う。
 - 今は意識がクリアではない患者には、リモコンを足側にしたり、使用しないよう工夫しているため。
 - 誤作動による危険予防。
9. 通常リモコンと別に、スタッフ用リモコンが設けられている
- 患者のそばにながなくても足元やリモコンと反対側からも操作できると良い。
 - スタッフの動線が少なく、労力が軽減できる。
 - 不穏や認知症の患者が勝手に操作してしまう事を防ぐため。
 - 患者の頭元までいかず、操作できる。
 - 安全性。

- ・ 手が使えない場合にも操作できる。
- ・ 動作がスムーズである。
- ・ 時と場合によって調節できると良い。
- ・ 患者用は患者の手もとにおき、スタッフは足側からできる。
- ・ スタッフの労力の軽減のため。

10. 高さ調整が簡便

- ・ 患者が自分の身体に合わせ調整でき、看護師も処置時便利である。
- ・ 処置しやすい。
- ・ ボディメカニクスを重視。
- ・ 利用者にとって、医療従事者にとって必要な高さに出来る。
- ・ 高さ調整が簡便—処置や移動がスムーズに行える。
- ・ 車いすのトランスファー時、ベッドを下げる際、Ptのベッドサイドで操作ができる。
- ・ 上げ下げの手間がかからないように。
- ・ 患者がベッド昇降する時と、スタッフが処置する時で高さを変えられるので便利。
- ・ 処置時調整したいので。
- ・ Pt、ナースどちらも簡単に操作できるから。
- ・ 調節がすぐにできるので、ケアに有効。
- ・ 患者のBedへの昇降や転倒防止の為に、患者の個性に合わせて高さにできる。
- ・ 腰を痛めずに処置ができやすいように調整ができる為。
- ・ 患者様の体型やADL動作に合わせて高さ調整ができる。
- ・ 高さ調整できることで。
- ・ Ptに応じて、処置に応じて、調節できる。
- ・ 処置移動など行為にあった高さの調節が必要なため。
- ・ 処置やベッド昇降に適した高さが必要。
- ・ ケア時に高さを変えられる事が看護師に便利。
- ・ ケア度の高い方が多い為、ケアの度に応じベッドをアップダウンできるのは良い。
- ・ ナースの腰の負担にならない。
- ・ 全てにおいて分娩台なので、分娩時の利用にて重視して利用できるから。
- ・ 患者の状態に応じて高さを変えられること。
- ・ 患者の状態により、ベッドの高さを変えることが多い。
- ・ 処置時は、適当な高さが必要であるため。
- ・ 自分自身（患者）で調節できる。
- ・ 無理な姿勢を取らなくてもベッドの高さ調節ができ、処置が行える。
- ・ 患者様が簡単に操作ができ、離床が速く行える。
- ・ 安全。
- ・ 低床にも利用できる。
- ・ 高齢化により、ベッド調節ができたり、高さの調節が出来ることが第1。転落の時の危険も少なくできる。
- ・ 移動できる患者には、患者に合った高さで調節できる。看護師の腰などの負担を軽減できる。
- ・ Ptの生活に合わせて、また、処置などで調整しやすいこと。
- ・ 患者の状態・医療者側の処置等に合わせて、変動できるとお互いに安全、安楽。
- ・ “患者において又、処置 etc.において高さを変えることが出来る方が良い。
- ・ 処置が行いやすい。
- ・ 患者さんの安楽の為。
- ・ 状態、処置内容によって高さが調整できる。
- ・ Pt自身が調節できる。
- ・ 処置によって対応できた方がいいため。
- ・ 処置時、リハビリ時簡単に調整ができる。
- ・ 高さ調整もリモコンでできるので便利。
- ・ 処置が容易だから。
- ・ 動けない患者に使用する事が多いため。
- ・ ベッドからストレッチャーの移動の時、苦痛なく高さ調節して移動できる。
- ・ 使いやすさ。
- ・ ベッドサイドでボタン1つで上下でき、無駄な動きが少なくすむ。
- ・ 処置に応じて調整し、ボディメカニクスを考えたい。
- ・ 簡単に患者の体位を整えることができる。
- ・ 個別に合わせた高さにより離床が簡便。
- ・ 臥床の患者が多く、検査などベッドのまま移送することが多い。
- ・ 術後の処置やその他の処置を行なう時、高さ調節を行なうことにより腰に負担がかからない。
- ・ 処置をする時やpt様の状態により高さ調節が容易に行なえると良い。
- ・ 患者自身が自分に合った高さに合わせて、低床にした場合ケアする時は高くすることで看護師の負担が減らせる。
- ・ 不穩のPtの場合、転倒しても高さが低く設定できるから。
- ・ 患者さんの日常生活動作に合わせて、かんたんに調整できる。
- ・ 乗り降りや他の移動でも、必要な高さに変更しやすい。
- ・ スタッフの動線が少なく、労力が軽減できる。

- ・ 用途により調節できる。
- ・ 処置などが行いやすい。
- ・ 処置をする時、検査時に調節しやすい。
- ・ 患者さんが自分の好みに高さを調節できる。
- ・ 処置時にも調整できて業務上楽。
- ・ ケアによって高さを変えられるので、腰の負担が少ない。
- ・ 離床促進や、ケア・処置・etc.の場合に合わせて高低が調整できる。
- ・ 安全が第一。
- ・ 離床の時に患者により高さに差があるため。
- ・ ナースの処置など用途に合わせて使用できるため。
- ・ 患者処置に適している。
- ・ 処置しやすい高さに簡単にアップすることができる。
- ・ ギャッジアップ時の転落防止。
- ・ 患者の状態に応じて、調整が簡単にできる。
- ・ 患者様自身でも操作でき、転倒予防につながる。
- ・ 処置する事が多いので（体交等）簡便な事が良い。
- ・ 腰をかがむことなく調節できる（介助者が）。
- ・ ボタンで簡単に調節できる。
- ・ 処置等で、高さの調節が簡便なことが必要である。
- ・ 低床ベットがのぞましいが、患者の状況に応じてベットの高さを調整できるため（処置・検査等）。
- ・ 1人で出来る。
- ・ 転倒対策の際、床ベッドにする前段階対策利用。
- ・ OP前後、処置時に高さを容易に変えられる。
- ・ 処置、Pt移動時にNsの体への負担軽減。
- ・ ADLに適した高さとしてNsの処置に適した高さが異なる為、リモコンで調整できるのが良い。
- ・ リモコン調整で、高さ、ギャジがかえることができる。
- ・ 処置の際、簡単に高さが上げられることは大切だから。
- ・ 処置しやすいように。

1.1. 処置がしやすい

- ・ 処置が多い。
- ・ 処置の時に調整できる。
- ・ 操作が手元でできるため、高さの調節が簡単にできる。
- ・ 患者の安全・安楽のため。
- ・ 処置する時は低すぎるとやりにくいので。
- ・ 電動ベッドを使用する患者はADLが低く多くの処置を要するから。
- ・ 高さの調節がし易い為、Nsがケアし易い。
- ・ 処置移動など行為にあった高さの調節が必要なため。
- ・ 全てにおいて分娩台なので、分娩時の利用にて重視して利用できるから。
- ・ ベッドの上・下降により楽な姿勢で処置が行える。
- ・ しやがまず、操作できる為、医療者の負担も軽減できる。
- ・ 状態、処置内容によって高さが調整できる。
- ・ ベッドの高さを自由に操作できるので処置がしやすい。
- ・ 処置をする時は、高くできる。
- ・ ケアの時、自分の身体の負担（腰痛）が軽い方が良いので。
- ・ 高さ調節で処置しやすい高さに容易にできる。
- ・ 高さを調節して自分の処置しやすい位置に合わせることができる。
- ・ 清潔操作（陰部洗浄、排便処理、オムツ交換、清拭、洗髪など）及び処置（IVH、点滴、座薬、洗腸、創処置、胸腔、腹腔穿刺、ルンバール等）、安楽（患者様も処置するNs、医師、パラメディカル、スタッフも）な姿勢で体に負担・負荷がかからずできる。
- ・ ボタン1つでいろいろ変化できる。処置に合わせてできるので楽。
- ・ ケア度の高い人と、ADL拡大中の方と混在している。ADL拡大中の方は移動時に楽である。

1.2. 寝心地がよい

- ・ 熟睡感が得られそうなので。
- ・ ベッド本来の機能なので。
- ・ ベッドである以上寝心地の良さは最優先と考える。
- ・ 安楽な体勢でベッド上でいていただきたい。ほとんどベッド上安静となるため。
- ・ ベッドとしての機能としては大切なことである。
- ・ ギャッチアップの体位を自ら調整できる。
- ・ 睡眠をとることの必然性を考えた時には大切である。
- ・ 安楽な体位をとりやすい。
- ・ ほぼ一日中使用している。
- ・ 患者の状態により安静度が変わるから。
- ・ 一日中使用するものなので寝心地の良いものが良い。
- ・ 寝心地が悪いとベッドから離れたがる。
- ・ よく眠れるように。

- ・ 安楽。
 - ・ 臥床患者が多いため。
 - ・ ベッドは寝るためにあり、これは絶対条件である。
 - ・ 動けない患者に使用する事が多いため。
 - ・ 患者様にとって気持ちが良い事。
 - ・ 患者の生活している時間が長い場なので、不快感がないことが理想である。
 - ・ 患者にとって一番大事な事。
 - ・ 長期ベッド上安静の方が多いため。
- 1 3. 様々な体位がとれる機能がついている
- ・ オペ後患者や体動が難しい患者に便利。
 - ・ 動けない患者に使用する事が多いため。
 - ・ 頭と下肢を上げるだけしかできないベッドしかない。
 - ・ 公介など楽である。
 - ・ 自動困難である場合、簡便と思われるため。
 - ・ 患者が自分の身体に合わせ調整でき、看護師も処置時便利である。
 - ・ 患者様の ADL に適応できる。
 - ・ 利用者が安全安楽に臥床するため。
 - ・ 患者さんが自由に楽な体位にできる。
 - ・ 当病棟のベッドにはない機能だが、あれば効果的である。
 - ・ 安楽な体位の工夫ができる。
 - ・ 上下だけでなく左右に動くことができればいい。
 - ・ 自分で体位をかえられない人が電動ベッドを使う。
 - ・ 体位変換は患者に負担になるから。
 - ・ 安楽な体位がとりやすい。
 - ・ 患者さんの安楽な体位をとれることができる。
 - ・ ベッド上で生活する患者さんにとって様々な体位がとれる事は重要。
 - ・ 自分自身（患者）で調節できる。
 - ・ 様々な体位をとる必要性が多い。
 - ・ 患者の術後の状態に合わせて、体位を調整できるから。
 - ・ 処置が行いやすい。
 - ・ 安楽で安全な体位の工夫ができる。
 - ・ このベッドを使用するのは、自力体動が困難な方なので、ベッドアップ以外の機能も必要。
 - ・ 様々な状況の患者に使用できる。
 - ・ ギャッチアップしても滑り落ちるのでは褥瘡等のリスクもあるので。
 - ・ 褥創対策。
 - ・ 体位に合わせてベッドをコントロールできる。患者様も床上で好みの角度がとれる。
 - ・ 安楽な体位が pt 様個々によってちがうため。
 - ・ ギャッジ up 時に安楽で体がずり落ちない体位を保ちやすいと便利だから。
 - ・ 安楽や処置の簡便性等様々なことで必要である。
 - ・ 便利だから。
 - ・ 患者の ADL にあわせ、坐位保持やセミファーラー etc. 適切な体位がとれる。
 - ・ 全てにおいて分娩台なので、分娩時の利用にて重視して利用できるから。
 - ・ 体交に制限がある患者や、ベッドの機能を借りて体交する患者がいる。
 - ・ 患者自身でもリモコン操作ができること。
- 1 4. 頭側柵も一緒にギャッジアップする機能がついている
- ・ 現在のベッドでは、ベッドアップしても柵は上がらず、危険と思っているため。
 - ・ 厚め（高め）の除圧マットを使うと、ギャッジアップ時不安になる時ある。
 - ・ ギャッジアップによる頭部からの転落予防のため。
 - ・ 現在のベッドにはこのような機能がなく、転落の危険を感じることもあるため。
 - ・ ベッドアップと同時に柵もアップする方が体のズレを防ぐ上で望ましい。
 - ・ 頭から落ちないように。
 - ・ ギャッチアップによって、転落のリスクが高くなる。
 - ・ 転落防止に。
 - ・ 転落防止対策としてベッドと柵の連動は必要である。
 - ・ エアーベッドを入れた場合など柵が低く転落のキケンあり。
 - ・ 使用したことはないが、安全そうなので。
 - ・ 上体のみは上体がずり落ちるので、このようなベッドが良い。
 - ・ ギャッジアップにより、転落や柵に挟まってしまうのを防ぐため。
 - ・ 転落防止のため。
 - ・ 転落防止・柵への首挟まり防止。
 - ・ 患者の安全を考えて、体位に合わせた柵の移動も必要と思う。
 - ・ ギャッチアップしても安全なように。
 - ・ ギャッチアップすると、ベッド柵が役に立たなくなる（頭部の方）ため。
 - ・ ギャッチアップすると柵はそのままガードされなくなってしまうので必要。
 - ・ 転落防止。

- ・ 当病棟のベッドにはない機能だが、あれば効果的である。
 - ・ 高齢者の片麻痺の患者が1人で操作した際、はさまれたりする危険があるため。また、自分で体を支えきれず、横にずれた時、転落の危険があるため。
 - ・ ギャッジアップ時の転落防止ができる。
 - ・ キューマラインをつくりやすいため。
 - ・ 起坐になると不安定さが増し、柵の位置が上がらないとキケン。
 - ・ 転倒防止のために。
 - ・ ベッドアップ時、左右に倒れ、転落の危険が高い。
 - ・ 転落防止、安全管理しやすい。
 - ・ ギャッジアップした時、柵が上がらないと、体位が不安定になって不安です。
 - ・ 柵と一緒に動かないと危険。転落する可能性があるため。
 - ・ 安全が第一。
15. マットレスが軽い
- ・ 取り扱いが便利。
 - ・ 体圧分散マットの使用が多いので、交換時軽いマットレスが便利。
 - ・ 移動、清掃時に体力消耗妨げる。
16. こわれにくい
- ・ 修理の頻度は手動に比べ多い。
 - ・ よく壊れる。
 - ・ 断線などで、よく壊れるため。
 - ・ 壊れると大変困る。代替えが必要となる為。
 - ・ 長く毎日使うため。
 - ・ 安全のため。
 - ・ 機能がよくてもこわれやすければ患者への迷惑もかかり、使えない間困る。
 - ・ 断線などでよく壊れるため。
 - ・ 安全性。
 - ・ 電動ベッドが挙上した状態等で壊れると不便。
 - ・ 患者さん個人が使用する為、いじってしまったても大丈夫なように。
 - ・ よくこわれてしまう→Ptにめいわくかかる。
 - ・ 電動がこわれてしまう使用できなくなってしまう。
 - ・ 修理に出す回数が少ないと助かる。
17. 整備・点検が簡便
- ・ 故障しにくい。
 - ・ よく壊れる。
 - ・ トラブルが生じてもすぐに対応できないと困るから。
 - ・ リモコンが時々壊れるので。
 - ・ 安全に使用するためには日々の整備・点検が容易に出来ることが良い。
 - ・ 機械類は安全に使用する為には、定期的に点検が必要。
 - ・ 整備・点検に長い時間とられたくない。
18. 清掃が簡便
- ・ 感染予防。
 - ・ 汚れる事が多いが、機能が付く分掃除がしにくい。
 - ・ 清潔保持。
 - ・ 清潔にするためには、清掃が簡単にできる事がよい。
 - ・ 尿便、汗で汚れやすいので。
 - ・ 退院のたび清掃、また、日々の環境整を行っているため。
 - ・ 汚れが多く、清掃に時間がかかる為。
 - ・ 汚れがひどく、清掃に時間がかかる。
 - ・ 感染防止対策として、清掃の簡便性は重要である。
 - ・ 高くしてベッドをギャッジupしないと、清掃ができない。
 - ・ 汚染しやすいから。
 - ・ 汚染した時にすぐに洗浄したりできるように。
19. その他
- ・ エアベッドを入れた場合など柵が低く転落のキケンあり。
 - ・ ICUなので、ほぼ毎日Wt測定する為、簡単に体重測定ができるものが良い。電源を抜いてもバッテリーなどがあり、Wtが測れるなど。
 - ・ ベッドの設置方向によって延長コードを必要としないため。
 - ・ 無理な姿勢を取らなくてもベッドの高さ調節ができ、処置が行える。
 - ・ 患者様が簡単に操作ができ、離床が速く行える。
 - ・ 患者（理解力良い）が自分で自由に気兼ねなく動かせる。
 - ・ 患者さんがNsを呼ばなくても自分でギャッジアップができる（終末期のPtなど）。
 - ・ 起床時になる時に、足・頭と交互に調整してくれるとPtも楽に起きれる。
 - ・ 軟膏当の処置とりはずし簡単。
 - ・ 臥床患者の褥瘡予防。